

開催報告



パーム油をめぐる、どこで、 どのような問題が起きているの？

日時:2018年12月21日(金) 15時~16時30分

会場:東京都生協連会館 会議室1・2

講師:伊藤 小百合さん(WWFジャパン自然保護室森林グループ)

参加:7生協 25名

主催:東京都生協連 環境・エネルギー政策推進連絡会



講師:伊藤 小百合さん

世界中で一番多く使われている植物油である「パーム油」。日本でも、菓子や加工食品、洗剤等に幅広く使われ「植物油脂」と表記すればいいため、身の回りのあらゆるところで使用されているにも関わらずあまり知られていません。

85%以上がインドネシアとマレーシアとごく限られた地域で生産され、現地では森林破壊、野生動物の消失、児童労働、温室効果ガス排出等の問題を引き起こしています。それらの問題を消費者の目線で実感できる学習会と、パーム油が持続可能な方法で生産・製造・流通する第三者国際認証について学びました。

見えない油?! パーム油ってどんな油なの?

パーム油はアブラヤシの実と種からとれる油です。植えると3年で実がなり、毎月収穫できるので農家にとってはありがたい作物です。

【例】パン、マーガリン、チョコレート、加工食品の揚げ油、ペットのえさ、口紅、シェービングクリーム、歯磨き粉、石けん、掃除・洗濯・食器用洗剤等。スーパーに並ぶ商品の約50%はパーム油を含んでいるといわれています。



産地では何が起きているの?

パーム油の需要は世界中で伸び、森林破壊はマレーシア→スマトラ島→ボルネオ島→ニューギニア島へと順々に拡大し、スマトラ島は農園の拡大などにより過去30年間で森林面積が半減してしまいました。すみかと食べものを失い野生動物が減少しています。

炭素の貯蔵庫からアブラヤシ農園へ

インドネシアには、世界でも貴重な泥炭湿^{でいたんしつちりん}地林という広大な森が広がっています。様々な動植物が育ち暮らす豊かな森であるとともに、非常に多くの炭素を蓄える貯蔵庫の役目も果たしています。



【泥炭湿地林】

①溝を掘って排水、伐採 → ②木や下草を焼き払う → ③栽培 → ④搾油

【農園拡大にともなう問題点】

- ① 泥炭が空気に触れ温室効果ガスを排出、生息地消失により野生生物が減少、先住民の権利侵害
- ② 燃焼による温室効果ガス排出、大気汚染(煙害)
- ③ 農薬や化学肥料による健康被害、野生動物と人間のトラブル、強制労働、児童労働
- ④ 放置された絞りカスの発酵による温室効果ガス排出、汚水の排出

ほかの油に変えられないの？

実は、世界の植物油需要を賄うための土地面積が、最も少なくて済む油がパーム油なのです。同じ栽培面積で生産できる油の量が他の植物油に比べて、けた違いに良いという特徴があり、同じ量を大豆油で生産しようとする土地が10倍も必要になってしまい、さらなる森林破壊が懸念されます。



RSPOという認証制度

2004年4月「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」を発足。パーム油の生産や流通を持続可能なものとするための「国際認証制度」を定め、認証油の利用を促進することを目的としています。

世界の動き 世界で流通するパーム油の約20%が認証油に切替わり、オランダをはじめとする欧州各国は2020年までに100%切替えを目指すと宣言しました。生協ではコープデンマークが2016年の時点で98%、コープスイスはすでに100%RSPO油を使用しています。

日本の動き 2018年12月現在、日本のRSPO加盟社数は115社。認証マークの付いた商品も販売されています。オリンピック・パラリンピックの運営においても、2012年ロンドン大会から持続可能な調達求められるようになり、2020東京大会においても環境負荷が大きいパーム油について、初めて調達基準が設けられました。2019年には、日本における持続可能なパーム油の調達を推進するプラットフォーム「JaSPON」が正式に設立される予定です。

2004年 RSPO 設立 持続可能なパーム油のための円卓会議



シミュレーションゲーム(RSPO疑似体験)
作る人・売る人の気持ちになって

RSPO:原則と基準(例)

環境 E	<ul style="list-style-type: none"> ■原生林や保護価値の高い地域を開発していない。(2005年11月以降)(7.3) ■希少種、絶滅に瀕した野生生物等の生息環境への配慮。(5.2) ■温室効果ガスを含む汚染と排出の削減計画の策定、実施、監視。(5.6)
社会 S	<ul style="list-style-type: none"> ■職場におけるハラスメントまたは嫌がらせが全く無い。(6.9) ■生産者及び採油工場は、人権を尊重する。(6.13) ■強制労働または人身売買による労働者は、いかなる形態であっても使用しない(6.12)
ガバナンス G	<ul style="list-style-type: none"> ■生産者と採油工場は、定期的に自らの業務を監視して見直し、継続的な改善が明示できるような行動計画を策定し、実行する。(8.1) ■長期的な経済的及び財政的持続可能性の達成を目的とした、実施中の経営計画がある。(3.1)

つくる責任使う責任



私たちが何かを買うとき迷った時は、価格や量を比較してより安価で量が多い方を選択する人が多いのではないのでしょうか。そうすると、



【RSPO認証マーク】

スーパーも消費者の要望する商品を用意しようとする。それが最終的に作る人につながり、生産地にしわ寄せが起きているのも原因の一つです。ということは、消費者が「環境や人権の守られたうえでつくられた商品が欲しい」と要望すれば、生産地の状況を変えることができるのではないのでしょうか。(講師:伊藤さん談)

消費者が商品を「選ぶ」ためには、供給する側が原材料についてしっかり発信していかなければなりません。今回、原材料として見えにくいパーム油が生産される過程で起こす様々な問題を知り、今後「生産者」や「原材料調達」というところに生協という立場からしっかりアプローチしていく段階になってきているということを学ぶ機会となりました。